

一般質問



文化芸術振興と浸水被害の対策について



無会派 ● 赤祖父 裕美 議員

問 令和4年4月から文化芸術振興は市長部局に移管したが、どのように変わるのか。

答 文化ホールの管理は直営で行い、国からの交付金なども活用しながら、世界を見据えた文化芸術振興を考えていき、今後文化体育振興事業団との話し合いに応じていきます。

問 今日まで、市民が積み重ねてきた文化活動についての考え方は

答 第2期湖南市教育振興プランに則って、市民との協働による文化芸術の振興を図り、市民活動を支援し、発表の機会を増やしていきたいと考えます。

問 本物の芸術に触れる教育の一つとして、陶芸の森「つちっこプログラム」を取り入れる考えについて。

答 一部導入している学校もあり、今後も選

択肢の一つとして紹介していきます。

浸水被害対策

問 7月19日の大雨による石部地先の浸水被害について、検証と今後の対策は。

答 石部地先に降った雨は、農業用水路や道路側溝を経て、ほぼ全てが一級河川の宮川と落合川に流入する状況ですが、JR草津線のアンダー部の断面が狭く流下能力が極めて低いことが大きく影響したと考えています。甲賀土木事務所長に対し、改めて優先順位の見直しを強く要望していきます。落合川については、今年12月に改修に関する説明会を開催し、平地河川化に向けて進めていく予定です。

立石川の浚渫は。

答 令和6年度に市道丸山線から延長1.4kmに渡り浚渫の予定です。



住み続けたいまち、市長が目指す12項目



みらいの風 ● 望月 卓 議員

問 「Change 2025」新しい風を湖南市へと2年前市長選出馬表明において、湖南市を変える12の課題を各々①子育て・福祉政策②安心安全のまちづくり③インフラ整備より4点掲げました。その内、小学校、中学校の給食費の無償化について

答 小・中学校の児童生徒の学校給食費は、学校給食法で保護者負担と定まっています。無償とすることは、本市の子育て施策には、有効な施策です。

現在、小中学校の給食費の歳入額は、約2億円であり、実施にあたっては財源確保が必要なことから、財源確保の検討を行ってまいりました。

今後、物価の高騰、燃料や光熱水費をはじめランニングコストの

増額が見込まれるなど、先行きは不透明な部分もありますが、一方で新型コロナウイルス感染症対策等が落ち着くことにより縮小する業務や新たな事業の創出などが考えられます。引き続き、支出経費の削減も含め、施策の実現に向け財源の確保に向け取り組んでまいります。給食の提供は、他の自治体も実施している事業であり、給食費の無償化や事業の運営については、湖南市だけで考えるのではなく、滋賀県との意見交換の場や市長会等において取り上げ、協議しており、県が取り組む方向で検討していますので、1年間は様子を見届けたいと考えております。